

## 新聞からたどる黒埼の歴史 (九)

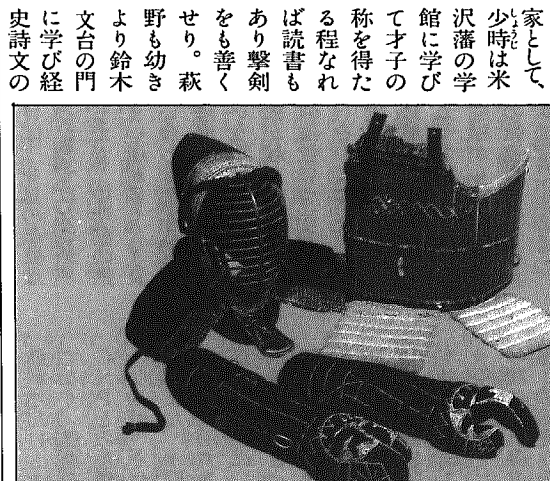
父親から剣道の手ほどきを受けた萩野左門は少年たちに共流剣法を教えていたが、ある日、武者修行者と試合するはめになった。

萩野左門の生いたち  
嘉永四年八月一日、板井村庄屋五代目伝衛の長男として生まれる。幼少の頃西蒲原郡粟生津村の長善館で鈴木文台を師として学び、和漢の学を修めた。十八歳で村上藩から板井村庄屋を仰せつかる。鹿藩のあと村の戸長となったが明治九年第二大区地租改正顧問となり、この頃から自由民権を唱え政界に活躍するようになる。

三十五年十月より三十七年二月まで第五代新潟市長を務める。  
大正六年十二月三十日享年六十六歳で世を去る。

### 若き日のエピソード

明治十二年十月十八日、新潟県会議員に当選。その後当選を重ね、当時信濃川、中ノ口川が貧弱のため度重なる破堤の惨状を憂いて、黒島の鷲尾政直等と堤防の補強工作を主張して「治水起工議」という書を発刊して大々的な計画を立て、また郡の治水、県の治水事業に尽力した。二十三年から二十五年まで県会議長をつとめる。  
二十七年三月十七日新潟県第一区衆議院議員選挙に当選する。三十一年八月栃木県知事となり、同十月辞表を提出。



萩野と武者修行者はこのような防具をつけて試合した。(小能雅夫氏所蔵の防具)

旅客入り来りて見物する者あり、試合の一番終わるを待ちいんぎんに礼を施して「誠に面白かったです。ドウカ私にも先生の御掛けい古を」と所望すれば、萩野其の様

道はおさおさに譲らねど、撃剣は、父より形を習いて其の心得あるばかりなり。されど田舎のことなれば村中には共に肩を並ぶるものなし。時には庭を道場として少年輩に指南し、兼ねては運動の助けとすることあり。一日例の如くヤリ、トウと声喧しき最中、いつしか門外より一個の

子を見るに骨格は逞しけれど、状貌は甚だ疎野にして田舎百姓が物好きに撃剣を学ぶものと見え、ざれば、「サーア〜」と遠慮なくおやり下さい」と鷹揚に挨拶すれば旅客は喜び、「道具は拝借願います」という。「ドレでもお使い下さい」と投げやれば、「有難うございます」と一礼し、やがて風呂敷包みを開き中より麻糸も立派に刺したる一枚のけい古着を取り出し、村中少年輩の群に在ればこそ先生とも呼ばれる我は、けい古衣一枚の用意だに無く農衣に袴をつけて間に合わせ居る有様なるに、旅客が用意の整ったを見れば決して素人の物好きというものならず、シグジツタリと思ひけれども今となりでは引くに引かれぬ場合なり「マヨ」と腹を据え、竹刀を取り立ち上がり上段、下段と一、二合闘いたれど微塵の隙もあらばこそ。右に左にと竹刀を打ち合う間に「お面」と一声飛び来るや忽ち一本頭上に参られたり、萩野は早々に竹刀を投げて「先生」と、今度は萩野から呼び掛けたり、「御名人とも知らず甚だ失礼しました」と詫言れば旅客も笑うて「ドウ致しまして」と礼を返し懐より手帖を取出し「私は青森県人で今度武者修行に出掛けたものでござります。これは道々試合を願った方々から御姓名を記して載いたものです。ドウカ記念のため先生からも、依頼され開いて之を見れば中に姓名を列するものは元村上藩の某新発田藩の某、いずれも斯道の達人なり。萩野は固辞すれども聴かざれば己を得ず「越後国西蒲原郡板井村住人某」と記し与へければ旅客は再び「お面」を背負うて飄然と去りて行く所を知らず。

萩野左門は、幼少より西蒲原郡粟生津村の長善館で鈴木文台を師として和漢の道を学び、英才の誉高かったが、剣術は父から手ほどきを受け僅かにその心得があるばかりだった。しかし板井村では剣術など知るものがなかつたので、家の庭を道場に村の少年たちを集めては我流剣法を教えていた。或る日のこと、何時ものようにけい古中、一人の旅人が見物に訪れた。(これが武者修行中の剣客であること、萩野は見抜けなかつた) けい古の中休みに入ると、旅人が「どうか私にも先生のおけい古を」と頼んだ。様子を見るに、萩野の目には物好きな田舎百姓としか写らなかつた。「さあ御遠慮なくどうぞ」と言う萩野の言葉に、「有難うございます」と一礼をした旅人が、風呂敷包みを開いて

取り出したけい古着を見て驚いた。村の少年たちから先生と呼ばれている自分は、けい古着もなく農衣に袴をはいて教えているのに、そのけい古着は麻糸で刺した立派なもので、旅人の用意の整ったさまを見てこれは素人どころか大変なことになる。しくじったと思つたが後には引けず竹刀をもつて打ち合ったが、忽ち萩野は「お面」を取られた。竹刀を投げ出して萩野は今度は自分から「先生」と呼び「御名人とも知らず失礼を致しました」と詫言れば、旅人は笑いながら懐中より手帖を取出し「手前は青森県出身の武者修行者で、これは道々試合を願った方々から御姓名を記して載いたものです。どうか記念のため先生の名をどうぞ」と依頼され、開いて見ればそこに記されているのは、元村上藩士某、元新発田藩士某と、いずれも剣客として知られた人ばかり、萩野は恥ずかしくなつて辞退したが、どうしても書いてくれというので、「越後国西蒲原郡板井村住人某」と記して与へ、旅人は飄然と立ち去つたという。あの威厳ある風貌の萩野氏、一体どんな顔をして武者修行者を見送つたことであらうか、青年期の一コマ。

## 社会教育事業のご案内

### 北部地区公民館 初級英会話教室

北部地区公民館 モローさんの  
簡単な、英会話を勉強しませんか。指導はシカゴ出身ランス・モローさん(黒埼中勤務)  
▼日時 前期5月12日から7月14日まで、後期9月1日から11月17日まで毎週木曜午後7時30分〜9時  
▼参加費 前後期各1000円(計2000円)、他にテキスト代実費約2000円  
▼対象 高校生以上成人一般  
▼会場・申し込み 北部地区公民館(☎232-0077)へ

### 詩と音楽の夕べ

▼出演 高橋長英(俳優) 中村たつ(俳優) 斉藤達雄(ギター) 小俣達郎(リコーダー)  
▼日時 6月2日(休)午後6時30分開場  
▼会場 農村環境改善センター  
▼入場料 前売800円 当日1000円  
中句から教育委員会、図書館などで取扱い  
▼主催・問合せ 社会教育課☎377-3101

### レザー工芸と工芸盆栽展

北部公民館でレザークラフトを指導している小島ヤイさんのレザー工芸と、今年度計画している工芸盆栽の指導者井上正子さんの作品を展示します。  
▼日時 5月13日(休)〜15日(日)午前9時〜午後5時(最終日は午後3時まで)  
▼会場 北部地区公民館(☎232-0077)

### 遊びのひろばつくって遊ぼう

今年も第2土曜日午前中は「遊びのひろば」を行います。たくさん参加してください。  
▼日時 5月14日(出)午前10時〜12時  
▼対象・定員 小学生4年以上10人(申込順)  
▼内容 「だまし絵」等をつくらせて遊ぶ。  
▼用意するもの 絵具と筆、はさみ、ものさし、えんぴつ、コンパス  
▼申し込み 北部地区公民館※参加無料

### 豪農の館と石川雲蝶の寺

中越の豪農目黒邸と開山堂、永林寺の石川雲蝶の彫刻を見学します。  
▼日時 5月24日(休)午前9時30分〜午後4時  
▼見学場所 目黒邸、西福寺開山堂、永林寺  
▼定員・参加費 24人(申込順)・3000円  
▼申し込み 5月18日(休)午前9時から北部地区公民館へ

### 近・現代文学講座

黒埼町公民館では昨年に引き続き、近代文学の研究者として著名な若月忠信先生を迎えて「近・現代文学講座」を開講します。  
▼日時 6月2日から毎月第1木曜日午後7時〜9時。来年3月まで10回シリーズ。▼会場 公民館講堂▼受講料 2000円(年間)▼対象 高校生以上どなたでも▼申し込み・問い合わせ 社会教育課☎377-3101

5月25日(水)

## 文化講演会のお知らせ 『私たちの暮らしとエネルギー』

地球にやさしくコストのかからないエネルギーをどうするか。そして、私たち自身大切なエネルギーをムダなく上手に使う、そんな工夫も暮らしの中に必要ではないでしょうか。今こそ、私たちの暮らしとエネルギーについてみんなで考えてみませんか。



日時 5月25日(水) 午後6時30分開場 7時〜8時30分講演  
会場 農村環境改善センター  
入場料 無料 定員 400人  
主催 東北電力(株)新潟営業所  
共催 黒埼町  
後援 黒埼青年会議所

木元教子さんのプロフィール  
北海道苫小牧生まれ。立教大学文学部、同法学部卒業。東京放送(TBS)入社。その後フリーとなり、教育、女性、エネルギー、政治、高齢化社会、農業問題など幅広い分野での放送活動、講演活動、文筆活動を続けている。  
なお、主な著書に『子離れ親離れのすすめ』など多数を執筆。



### 赤十字にご協力を

赤十字の社会貢献活動を通じて、自治会・ボランティア・市民の力を結集し、社会の発展に貢献します。

### 看護フェスティバル

テーマ さあ大変 こんな時どうする?! (乳幼児の救急時の対応について)  
とき 5月14日(出) 午後1時30分から 33月 3時30分まで  
ところ 黒埼町農村環境改善センター  
内容 健康劇・手作りおやつ・試食・講演会『乳幼児の救急時の対応について』講師 済生会新潟第2病院 小児科 名古屋聡医師  
●子ども何でも相談 医師 看護職員・栄養士が相談に応じます  
対象 どなたも大歓迎(講演の間は保育もあります)  
主催 新潟県巻保健所・新潟県看護協会巻地区協会・黒埼町

5月12日は看護の日です